

前橋商工会議所

GREEN & RELAX

森の中のまちをつくる
～新しいまちづくりの提案～

前橋商工会議所
Mar.2019

「Green & Relax 構想」提案書発刊にあたって

昔は「まちに行く」、この言葉を聞くと「ワクワク、ドキドキ」を感じ、ちょっとおしゃれをして中心市街地に出かけるのが楽しみの一つでした。商店のほかに娯楽や芸術、文化、歴史など様々な魅力があり、新しい発見が集まっているまちなかに憧れを感じていました。

しかしながら、人々のライフスタイルやニーズの変化、マイカー中心の社会構造の中で中心市街地は急速に寂しくなってきました。このような状況となった前橋の中心市街地を再び活性化しようと、これまでも行政や商工会議所、関係団体が様々な取り組みを実施してまいりましたが、継続した賑わいに結びついていないのが現状であります。

そこで、前橋商工会議所では、市街地活性化専門委員会を中心として「前橋の顔」である中心市街地が市民や来街者にとって「元気になれるまち、また訪れたいまち、住んでみたいまち」となることが、前橋の継続的な繁栄につながると考え、これまでまちなかの活性化事業に携わってきた民間団体や企業の方々に集まっていただき、新たなまちづくりについて協議を重ねてまいりました。

そのなかで、「自分たちがこのまちをつくっていく」という自負と責任を持ち、民間が主体となって新たな運営組織を構築し、情報の発信、イベントの開催、再開発事業や空き店舗対策事業などを集約・一元化し、効率的・効果的な運営を図るとともに、中心市街地において継続的な発展につながるまちづくりを進めるために「アーバンビジョン」を策定し、誰も見たことのないような「デザイン都市前橋」に向けた取り組みを進めていくことが必要であるという認識で一致しました。

そして今般、前橋のまちの目指す方向性を「Green & Relax 構想」として取りまとめていただきました。本提案書作成にあたり、民間主体によるまちづくり運営組織の構築に関する意見交換会メンバーの方々には、貴重なご意見・多大なるご尽力・ご協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

結びに、「水と緑と詩のまち」にふさわしいこの「新たな前橋のまちづくりのテーマ」が是非とも具体的な取り組みにつながるよう関係各位の皆さまの絶大なるご理解・ご協力をお願い申し上げますとともに、「前橋のまち」が末永く発展し続けることを心から祈念して、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

2019年3月
前橋商工会議所
会頭 曾我 孝之

はじめに

市街地活性化専門委員会では、民間主体によるまちづくり運営組織の構築に関する意見交換会を開催し、これまでまちなかの活性化に携わってきた民間団体や企業の方々の意見をとりまとめ、誰もが共有できるビジョンや戦略・戦術として冊子にしました。

本冊子は「Green & Relax 構想」を掲げ、前橋のまちのコンセプト「水と緑と詩のまち」を体現できるような“森の中のまちをつくる”―自然や緑による効果がある環境をつくり、知識産業、クリエイティブ人材などが集まることで、まちなかの活性化を図るという考え方を提案するものです。

皆様とともに明日の前橋を考え、“新しい価値が生まれ続ける都市”にするため、是非、ご一読いただければ幸いに存じます。今後は、民間主体による運営組織を早急に立ち上げ、これまでの都市開発とは一線を画した、唯一無二のデザイン都市を目指したいと考えています。

本冊子の作成にあたり、民間主体によるまちづくり運営組織の構築に関する意見交換会にご出席された皆さまをはじめ、関係各位の皆さまから多大なるご指導、ご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

前橋商工会議所 市街地活性化専門委員会
委員長 吉岡 慧治

INDEX

- 02 込められた想い ～前橋の顔をまちなかにつくる～
- 04 必要なものは、ビジョン、戦略、戦術。
- 06 前橋ビジョン「めぶく。」
- 08 デザイン都市とは？～デザインの本質はより良い社会をつくること～
- 10 既存の産業とデザインの力を掛け算していく
- 12 クリエイティブな人間が好む環境
- 14 都市の本質は“集積”
- 16 大都市のストレス
- 18 Green & Relax ～森の中のまちをつくる～
- 20 Green & Relaxなライフスタイルで人を惹きつけるまち
- 22 “刺激”と“Relax”が両立できる「水と緑と詩のまち」
- 24 前橋のまちなかのこれから

込められた想い

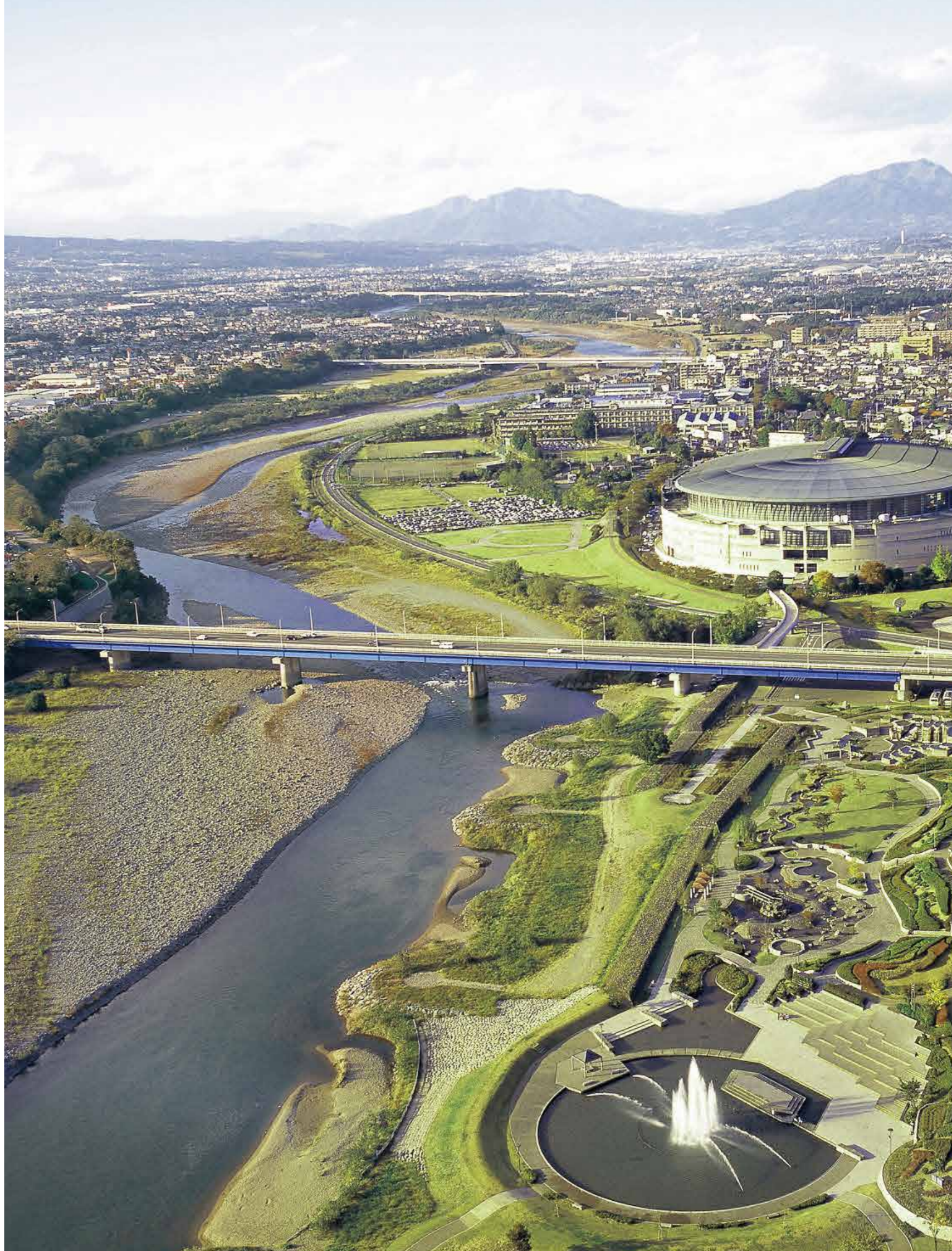
～前橋の顔をまちなかにつくる～

大きな変化の時代。産学官民が連携して、
世界が注目する新しいモデルとなる日本の地方都市を目指したい――

前橋では、いろいろな立場の人々が、
まちの顔であるまちなかをよくするべく日々、頑張っています。
今こそ、それを一つにして、取り組む必要があると、
多くの方が思っています。

本冊子は、前橋に関わる個人・組織で
その一つの方向性を共有していくためにつくられました。

前橋が、持続的・継続的に発展し続けるためには、
経済を好循環させ富をもたらす、
新しい価値を創造し続けられる仕組みを構築することが必要です。
そのためには、今までとは違う発想とやり方でまちづくりを考え直し、
将来のビジョン(目標)を実現するために
やるべきことをやっていくことが重要です。



必要なものは、 ビジョン、戦略、戦術。

[めぶく。]:

「前橋市はどのようなまちを目指すのか。」を示す将来像として共有するためのビジョンです。前橋のまちがもたらす価値である「良いものが育つまち」を“めぶく。”という言葉で表わしています。

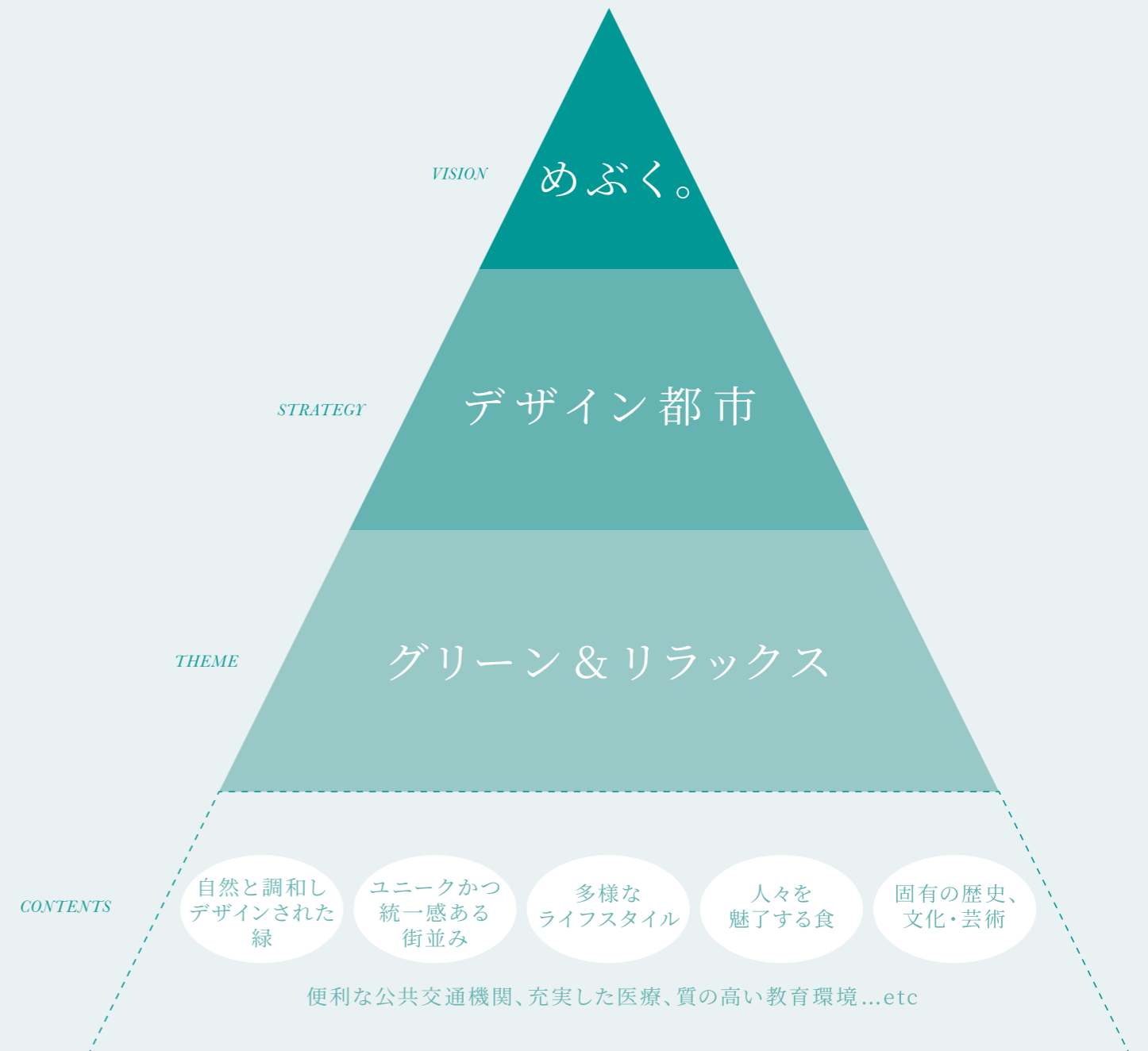
[デザイン都市]:

ビジョンを達成するためには、そこへ向けた戦略が必要です。人々の生活をよりよくし、前橋の課題を解決するために、デザインの力を大事にする。「デザイン都市」はそのための戦略です。

[グリーン&リラックス]:

人々の生活をよりよくするため、また“デザイン”をするクリエイティブな人を惹きつける東京などの大都市にはない前橋のまちなかの魅力付けとして、「グリーン&リラックス」を一つのテーマにします。これは戦略を実行するための、具体的な戦術とも言えるかもしれません。

そのテーマのもとまちづくりが進めば、デザインされた緑や統一感のある街並みなど、様々なまちのコンテンツに新たな魅力が生まれるはずです。



前橋ビジョン「めぶく。」

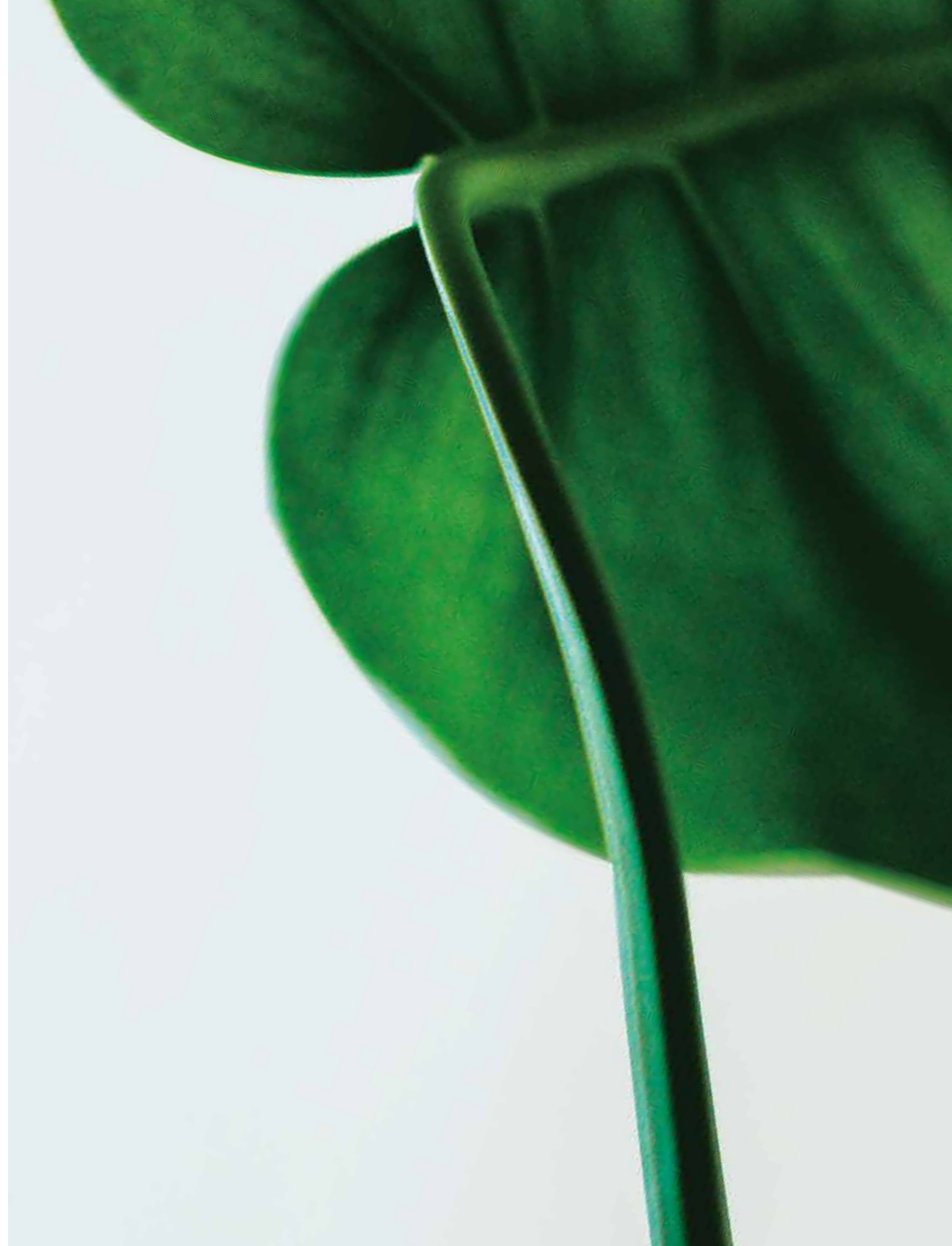
前橋ビジョンは、前橋の特徴を調査・分析し、将来像として、「前橋市はどのようなまちを目指すのか。」を示したものです。

ビジョン策定にあたっては、前橋市の都市魅力アップ共創(民間協働)推進事業として、官民一体となった前橋ビジョン実行委員会のもとでつくられました。

策定に向けた具体的な作業は、前橋に対してフラットな外部の視点で分析してもらうため、アウトディやアディダスなどのブランド戦略を手掛けるドイツのコンサルティング会社「KMS TEAM」に依頼し、市民アンケートや各種団体へのヒアリングを行いつつ進められました。

その結果、2016年3月の中間発表会では本市について、「Where good things grow(良いものが育つまち)」という分析がなされました。

この英文での分析を前橋市出身で様々な商品・作品のキャッチコピーを生み出した糸井重里さんによる新しい解釈に基づき、日本語で「めぶく。」と表現し、2016年8月に披露されました。



デザイン都市とは？

～デザインの本質はより良い社会をつくること～

グローバルに都市間競争が激化する中、
「新しい価値」をつくり続けられるまちが生き残ることができます。
では、価値とは何でしょうか？

価値とは、人を触発し、感動させるモノ、サービス、空間のことです。
今の時代、人々はもはや機能や利便性だけでは触発されず、感動しません。
デザインされた建築、アート、味、サービス、店舗、洋服、職場。
そういったものが、人を触発し、感動を生み出し、価値を生み出します。

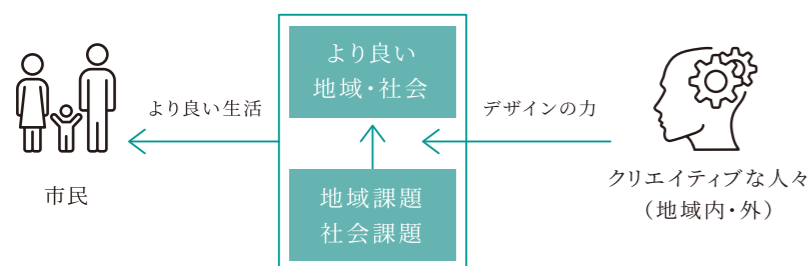
これからの都市は、デザインの力で
新しい価値を生み出していく必要があります。
では、デザインの本質とは何でしょうか？

“デザイン”と聞くと、人によっては自分の生活とは関係ないと
感じる人もいるかもしれません。でもそんなことはありません。

デザインとは、地域・社会の課題を解決し、
より良い地域・社会をつくることです。
それによって、前橋に暮らす人々は、
より良い生活を手にすることができます。

自動運転によりいつでも手軽に乗れるおしゃれな車があったらどうでしょうか？
子供から大人までが集まれる緑溢れる図書館があったらどうでしょうか？

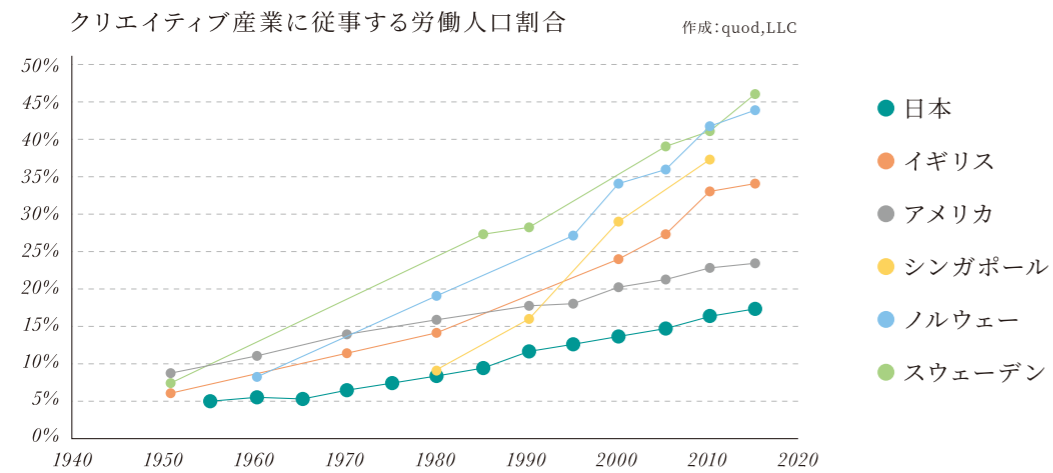
デザインする力を持つ、地域内外のクリエイティブな人を惹きつけ、
前橋をより良い社会に変えていく。それが「デザイン都市」です。



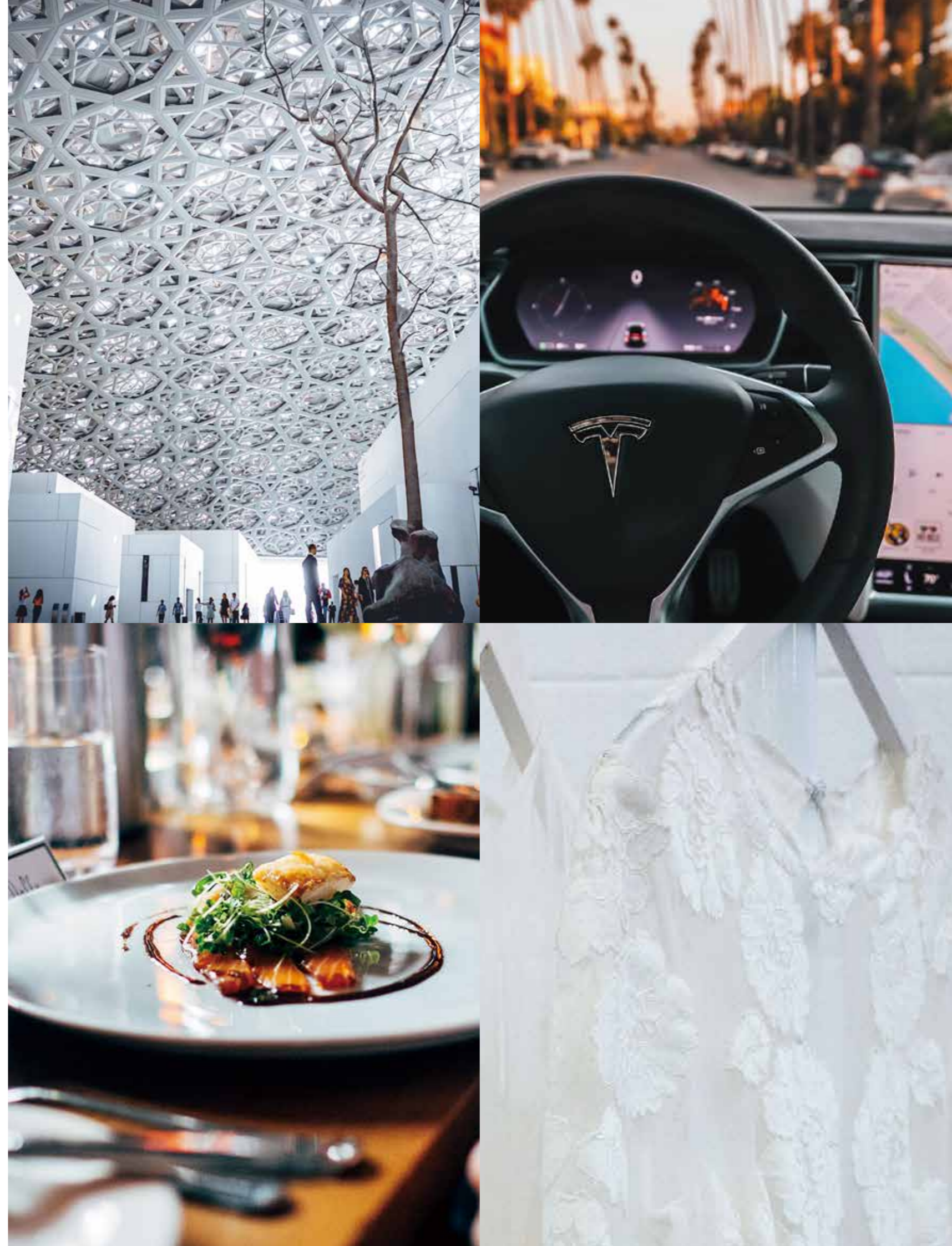
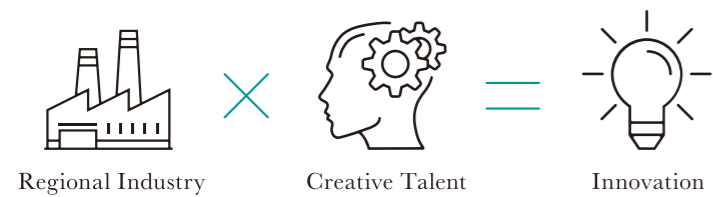
既存の産業とデザインの力を 掛け算していく

いま、世界中でデザインする力を持つ、
クリエイティブな仕事につく人が増えています。

デザイナー、建築家、職人、映像作家・写真家などの
クリエイターと呼ばれる人々や、システムエンジニア、マーケター、
コンサルタント、弁護士、バンカー、リサーチャー、データアナリストなどの
ナレッジワーカー（知識労働者）と呼ばれる
新たな付加価値を生み出す人々です。



では、単にそういう人たちを前橋に呼び込み増やせば良いのでしょうか？
そうではありません。デザインできる力をもつクリエイティブな人々と
既存の産業とを組み合わせることが必要です。
それこそが新しい価値を生み出す原動力になります。



クリエイティブな人間が 好む環境

クリエイティブな人を前橋に惹きつけるには
どうしたら良いのでしょうか？

トロント大学の都市社会学者Richard Floridaは、
これからの都市間競争のなかで都市が生き残るには
「3つのT」が重要と主張しています。

Technology(技術)、Talent(才能ある人材)、Tolerance(多様性への寛容性)です。
特にTalent(才能ある人材)を、Creative Classと定義しており、
彼らが好む環境を下記のようにあげています。

“弱いつながり”の人間関係も好む

家庭や職場のように立場や役割が決まったところではなく、自由な個人として参加でき、
多くの人とつながり、多様なアイデアを交換できるカフェのような場所を求めます。

正統性のある場所、体験型施設

歴史的な建造物、古くからの住宅地、独特のミュージックシーンや特定の文化的属性、
世代を超えた交流など次なる創造につながる

その場所ならではの正統性(本物感)のある体験を求めます。

(面白い音楽を聞かせる場所、近隣のアートギャラリー、パフォーマンス・スペースや劇場など)
時間を問わずオープンしているエンターテインメントも重要です。

心身を整えリラックスできる場所

朝にランニングやヨガができる場所や、空を見てぼおっとできる公園などを欲します。

クリエイティブな仕事は工業などの第2次産業のようなスキルや
時間の部分的な切り売りではなく、新しいものを生み出すため、
自分の心・技・体、全てが整うライフスタイルが必要とされます。

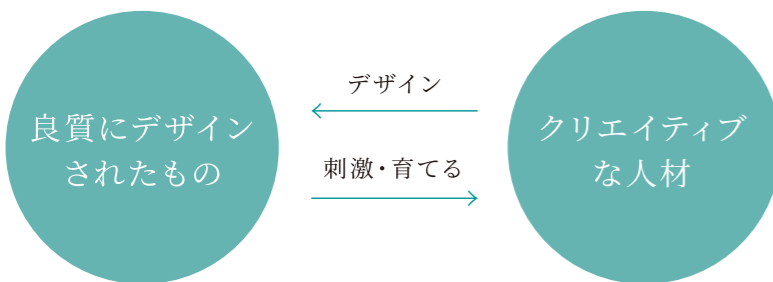


都市の本質は “集積”

インターネットの進化により、人々はフラットに分散して暮らすようになるという考え方もありましたが、実際には世界では都市化がより進んでいます。国連によると、2018年時点で世界の都市人口比率は55%ですが2050年には68%に達すると予測されています。

ハーバード大学・経済学者エドワード・グレイザーが『TRIUMPH of the CITY (邦題; 都市は人類最高の発明である)』の中で言うように都市が持つ「近接性」や「密度」が多様な人々の交流や知識の伝達を促しイノベーションを加速させます。そのメリットは、生活費のデメリットも上回るため、人々の更なる集積が進んでいます。多様なものが集積する“都市”の力は今後ますます重要となっていきます。

デザインの集積も重要です。クリエイティブな人材は、良質なデザインされたものから刺激を受け、そしてクリエイティブな人材は新たなデザインを生み出します。そのような良い循環を生み出していく必要があります。



大都市のストレス



一方で、近年、集積が進みすぎることによって生じる「都市ストレス」の弊害も指摘され始めています。

- 独ハイデルベルグ大学のメンタルヘルス中央研究所は、2011年の研究で都市生活者のほうが脳へのストレスが大きいことを明らかにしています。
- ポーランドの「プシェクルイ」誌も、都市生活者は田舎暮らしの人々よりも不安障害が21%、うつ病が39%も高い確率でかかると報告しています。
- 英国「ジップジェット」が実施した、ストレスが少ない世界の都市ランキングでは世界の四大都市、ロンドン、東京、パリ、ニューヨークは各々70、72、78、84位といずれも150都市のほぼ中位にとどまっており、特に大都市は都市ストレスが大きいことがわかります。

都市の集積のメリットは得ながら、都市のストレスを低減していくことが求められております。



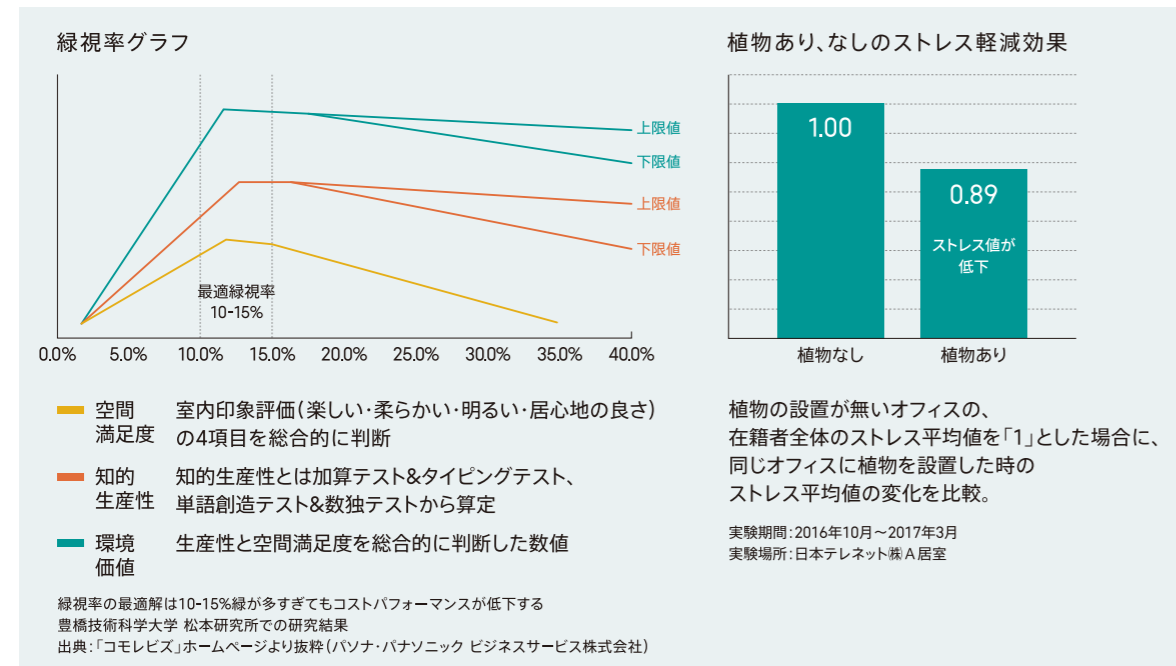
Green & Relax

～ 森の中のまちをつくる～

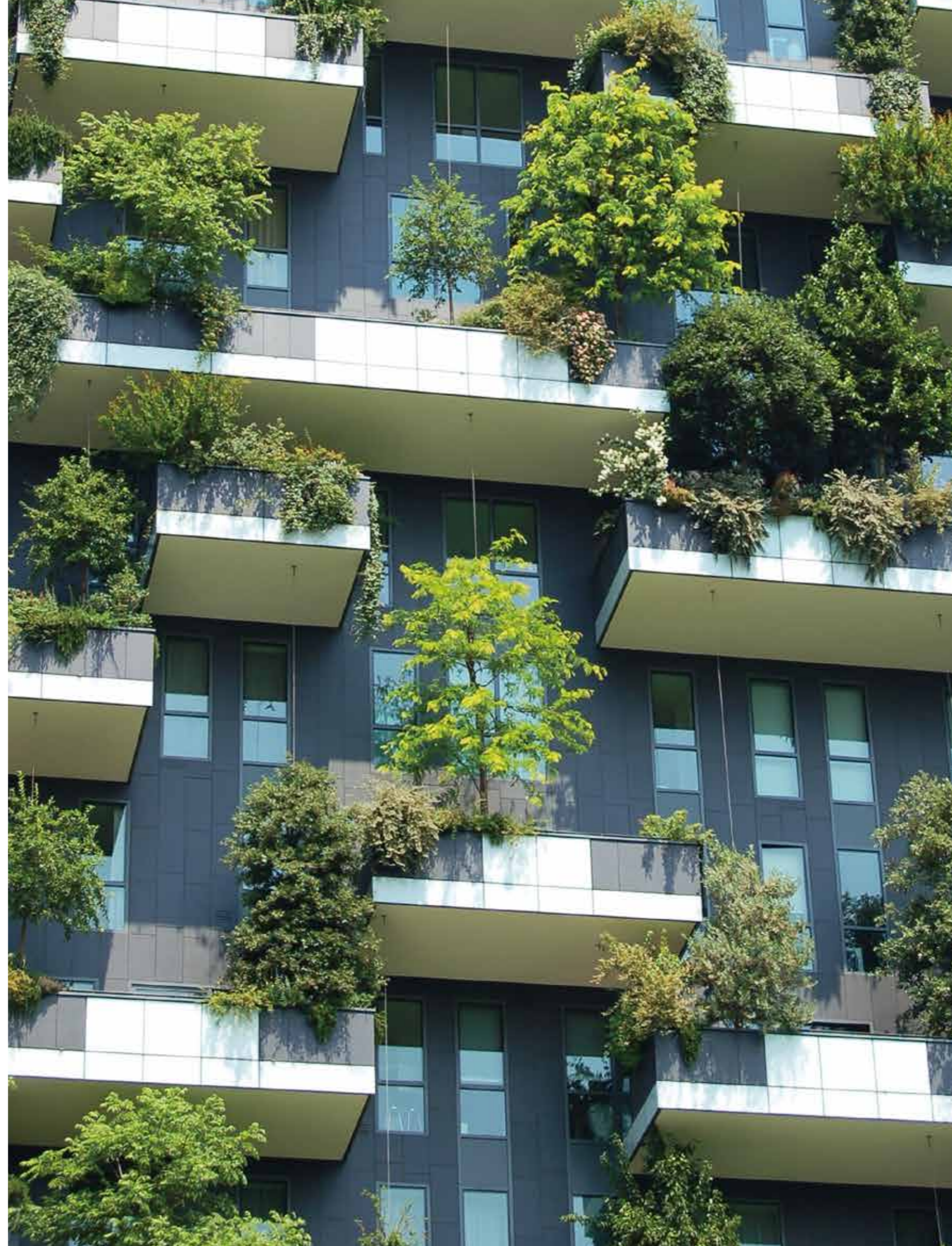
そういった中で、注目されているのが、緑です。
近年の研究により、自然・緑がストレスを低減したり、
人間の能力を向上させることが科学的に解明されてきています。

視覚	嗅覚	聴覚
自然を見ることで、心理的ストレス後の最低血圧の低下が早まる	特定の植物の匂いが、視覚的な集中作業の力を向上させる	自然の音を聞くことでストレスが低減し、睡眠の質が向上する
自然が見えるオフィスワーカーの方が自分の健康をよりポジティブに評価する etc	匂いが記憶の誘導因子になる etc	認知症患者が室内の滝の音を聞くことで最大血圧が劇的に低下する etc

また緑は、ストレスを低減させるだけでなく、
知的生産性を向上させるなど仕事の生産性を上げることも
解明され始めています。



“森の中のまち”をつくる。そんなことができれば、
都市の恩恵を預かりながら、緑の力で豊かな生活ができる、
世界でもユニークな都市をつくれるかもしれません。

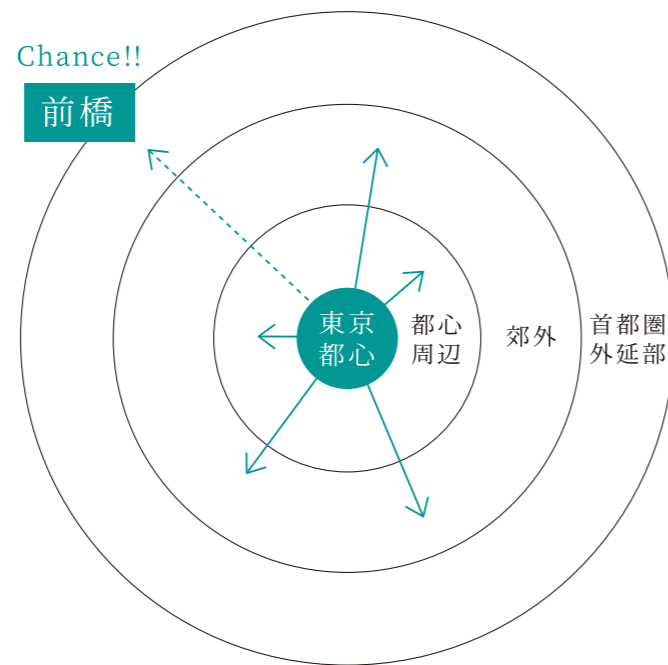


Green & Relaxな ライフスタイルで 人を惹きつけるまち

アメリカのポートランドやブルックリン、スペインのサンセバスチャン。これらの都市は、自然や緑も活かしながら、デザインの力で魅力的なライフスタイルを提供し、人を惹きつけるまちとして知られています。

クリエイティブな企業も緑豊かでリラックスできるライフスタイルを求める流れが世界的にも進んできています。近年の日本の研究*によると、東京都市圏でも知識産業企業のオフィスが都心から郊外へ拡散する傾向が見られています。この状況をチャンスと捉え、前橋のまちなかにそれを受け入れる環境をつくるのが必要なのではないのでしょうか。

*参考:「東京大都市圏における知識産業事業所の広域的移転流動パターンとその発生メカニズムに関する研究」/山村崇、後藤春彦



知識産業のオフィス機能が郊外へ移り始めている。これは、前橋にとってチャンス!



Portland ポートランド/アメリカ
都市部成長境界線を設定し、周辺の豊かな自然を残しながら都市機能を集中させることで、コンパクトで環境に優しい都市をデザインした。それにより職住近接で豊かなライフスタイルが実現され、全米一住みやすい街として多くの人を惹きつけており、そこから新しいカルチャーや産業が育ってきている。



San Sebastian サンセバスチャン/スペイン
一人当たりのミシュランの星が世界一の美食都市。若手シェフたちが互いにレシピをオープンにしあう料理人の新しい在り方をデザインすることで優秀な料理人が集まっていく。そして、その環境に惹かれ多様なクリエイティブな人材が集積し始めている。

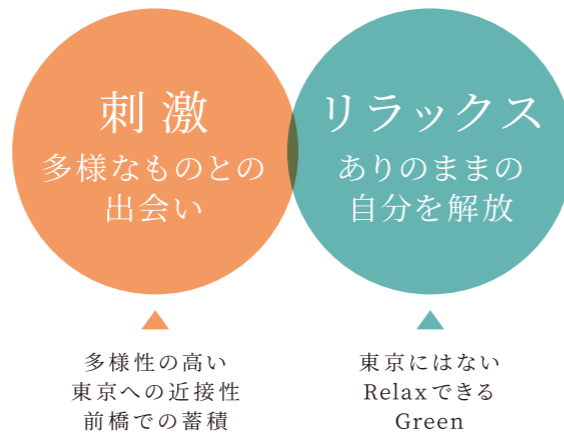


Brooklyn ブルックリン/アメリカ
NYの中心マンハッタン区に隣接するエリア。もともと工場と倉庫街であったが一度衰退。その後、古い建物を生かしながら、街の3ヶ所(ダウントウン・倉庫・Yard)の間を集中的に良い場所にし、独自の文化をもつ、多様性のあるエリアとして人気を集めている。

“刺激”と“Relax”が 両立できる 「水と緑と詩のまち」

群馬県の県都であり
「水と緑と詩のまち」で
緑が豊富な前橋には
都市が提供する“刺激”と
自然が提供する“Relax”を
バランスよく両立できる
可能性があります。

前橋は東京との近さを活かしつつ、
良質なデザインを地元で蓄積しながら、
東京にはないRelaxできる緑の創出に
より注力して人を惹きつける考え方です。



ex. 広瀬川テラス構想

広瀬川テラス構想は、
前橋のまちなかを流れる広瀬川を対象に、
河畔の緑地空間を活かした
魅力付けについて提案したものです。
この構想をきっかけに、
前橋文学館1階にカフェがオープンしたり、
萩原朔太郎生家の移築、
そして、河畔エリアの整備が
進もうとしています。



前橋のまちなかの これから

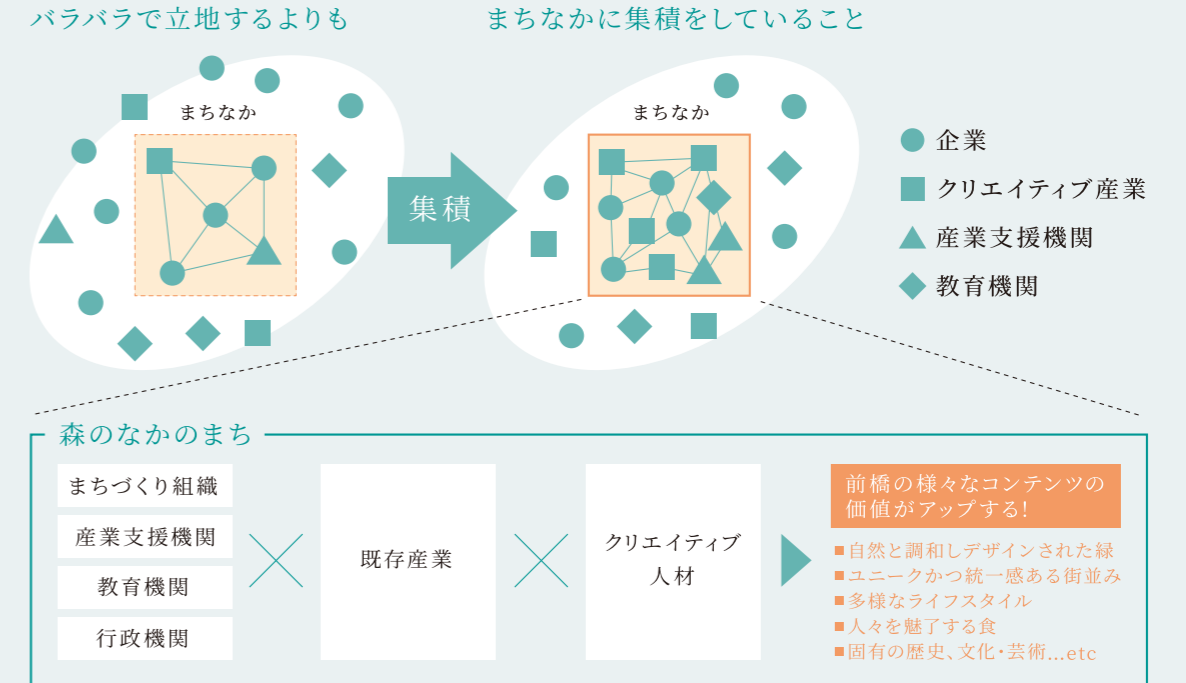
前橋のまちなかは城下町を起源として発展してきました。それぞれ特色を持つ9つの商店街、広瀬川や太陽の鐘、アーツ前橋、前橋文学館等のスポットに加えて長年にわたり蓄積された歴史や文化等が存在する集積のある場所です。

それらを活かすためには、まちなかに住む人や働く人はもちろん、多様な目的を持ってまちに関わる人を増やすことが必要と考えます。他都市にはない前橋ならではのモノ・コト・バショをつくることで、ここに住みたい、仕事をしたいという若者も増え、彼らのニーズに応えるべきお洒落なブティックや雑貨店、美味しい飲食店、映画館や芝居や音楽を鑑賞できる劇場などまちに必要なハード・ソフトが充実していくことにつながると考えられます。

このことが地域に富をもたらし、資本が循環して最終的に教育や医療やインフラ整備にまわっていくことで全市民が潤いをもたらすような、発展し続けるまちのイメージをつくりたいと考えています。

コンセプトに「グリーン&リラックス」を掲げ「世界一美しい水と緑につつまれたデザイン都市まえばし」を目指します。自然と文化がまちじゅうに溢れ、リラックスしていただける森の中のまちに、クリエイティブな企業や人材が集まることで、新しい価値が生まれ、文化度が高くお洒落なまちを創造していきたい。

森のなかのまちにクリエイティブ人材が集まるイメージ



様々な要素がまちに集まってつながるイメージ



おわりに

本冊子は、前橋のまちづくりに関わる人々があるべき姿を共有するための、一つの方向性を示したものです。

本編で「デザイン都市」という言葉が出てきますが、ここで語られる「デザイン」とは決して表面的なものではなく、ビジョンの具現化を指しています。「水と緑と詩のまち」というキャッチフレーズを古くから持つ前橋には、新たに“めぶく。”というビジョンが生まれました。それらの考えを踏まえ、まちづくりのコンセプトとして掲げられたものが、「Green & Relax」という提案なのです。

今後、ますますデジタル化が進んでいく社会の中で、人と自然はどのような関係性を築いていくのでしょうか。たとえば、GoogleやMicrosoftは、あれだけの大企業でありながら、森のような環境にオフィスを置いています。一方Appleは、会社の中をまるごと森のような、豊かな自然にあふれた環境にしています。先端に行くほど、「自然と身近に生きよう」という流れが起きているのかもしれませんが。とはいえ、多くの都市ではいまだ多くの木が切られ、コンクリートの面積は広がっています。そんな状況の中、「街そのものをデザインされた緑で包み込む」というこのアイデアが実現されれば、前橋は世界でも類まれな都市として、大きな注目を浴びることでしょう。

今、前橋が再生できるかどうかの分水嶺にあると思います。このユニークなまちづくり計画を進めることで、他都市と大きな差別化が進むことでしょう。その先には、「東京から一番近い田舎まち」、「人間が人間らしく生活できるまち」というオンリーワンの個性をもったまちとして、前橋は独自の成長を遂げていくことでしょう。その未来を思い描くだけで、なんだかワクワクしてきます。

この構想を現実のものとするためには、様々な人が手と手を取り合い、コラボレーションしていくことが必須です。それぞれの強みをつなげあうことでしか、新しい価値の創造は生まれません。そう、強く思うのです。

前橋商工会議所 市街地活性化専門委員会
副委員長 田中 仁

民間主体によるまちづくり運営組織の構築に関する 意見交換会 メンバー

(五十音順・敬称略)※所属は平成30年4月1日現在

氏名	所属
天野 洋一	太陽の会 副会長／GNホールディングス(株)代表取締役社長
石井 繁紀	前橋商工会議所 市街地活性化専門委員会 委員／(株)石井設計 代表取締役社長
石田 哲博	(株)エフエム群馬 代表取締役社長
植木 修	前橋中心商店街協同組合 理事長
植木 康夫	前橋商工会議所 副会頭／前橋商工会議所 まちづくり推進委員会 委員長／(株)フレッセイ 相談役
江原 友樹	前橋街づくり協議会 会長／前橋商工会議所 商業・観光専門委員会 副委員長／(株)天原社 代表取締役
大橋 慶人	前橋中央通り商店街振興組合 理事長／(株)鈴木ストア 代表取締役社長
大森 昭生	共愛学園前橋国際大学 学長
小林 幹昌	(株)勝山工務所 代表取締役所長
高柳 聡志	公益社団法人前橋青年会議所 理事長／ユーコム(株)代表取締役社長
田中 仁	前橋商工会議所 市街地活性化専門委員会 副委員長／太陽の会 会長／(株)ジンス 代表取締役CEO
田中 幸雄	NPO法人まちなかステージ前橋 理事／(株)五光 宇都宮店 前橋支店 参与
中埜 智親	(株)オリエンタル群馬 代表取締役
中村 敬太郎	風の会 会長／前橋園芸(株)代表取締役社長
中森 隆利	NPO法人まちなかステージ前橋 副理事長／日本ピアノホールディングス(株)代表取締役
萩原 香	NPO法人市民活動を支援する会 代表／(有)萩原構造計画事務所
橋本 薫	(一社)前橋まちなかエージェンシー 代表理事
林 智浩	45DAYS2017実行委員会委員長／(株)エーアンドブイ企画 代表取締役
平形 敦史	前橋商工会議所青年部緑水会 代表幹事／(株)西建 代表取締役社長
平方 宏	前橋商工会議所 安心・安全なまちづくり専門委員会 委員長／平方木材(株)代表取締役社長
二口 圭介	(一社)前橋まちなかエージェンシー 理事
圓岡 孝文	(株)まえばしCITYエフエム 代表取締役社長
三橋 正隆	(有)グローバルファクトリー 代表取締役
吉岡 慧治	前橋商工会議所 市街地活性化専門委員会 委員長／NPO法人まちなかステージ前橋 理事長／三陽技術コンサルタンツ(株)代表取締役
渡邊 辰吾	45DAYS2016実行委員会委員長／(株)ソウワ・ディライト 代表取締役CEO

【事務局】
村井 誠志 前橋商工会議所 事務局長(兼) 政策部長 須賀 裕一 前橋商工会議所 政策部政策推進課 課長補佐
須田 憲人 前橋商工会議所 政策部政策推進課 課長 稲垣 昌茂 前橋商工会議所 政策部政策推進課 係長

民間主体によるまちづくり運営組織構築のための — 趣意書 —

衰退が叫ばれて久しい前橋の中心市街地活性化については、これまでも中心商店街協同組合をはじめ行政や商工会議所、関係団体が様々な取り組みを実施してまいりましたが、継続した中心市街地の賑わいに結びついていないのが現状です。

その大きな要因は、本来「まち」が持つ魅力、それはかつての中心市街地が持っていた街並みや風情、文化、歴史が醸し出す「ワクワク感」や「ドキドキ感」がなくなっているからではないでしょうか。

人々の価値観や生活習慣が多様化するとともに、モータリゼーションの進展による郊外ショッピングセンターの出店、インターネットの普及、さらには少子高齢化が進む中で、各商店の魅力だけで中心市街地の魅力を取り戻すことはもはや難しい時代となっています。

近年、「45DAYS」「めぶくフェス」といった新しいカタチのイベントが行われる一方、「前橋市街地総合再生計画」が策定され、再開発事業が動きだしハード・ソフト両面で官民の取組が活発になっています。

しかしながら、情報共有が乏しく、それぞれの取り組みがバラバラで連携が取られておらず、地域貢献の名のもと、誰かに負担がかかって長く続かないことも多くあり、日常の回遊性につながっていません。さらに行政や商工会議所などの公的な組織が主体になることが多いため、前年踏襲型で時代のニーズや市民の要望に応えてないケースも見られます。

それとともに、トップや担当者が代わるとまちづくりの方向も変わってしまうなど、これまでの前橋が経てきた実態も定着性や継続性を阻害してきた大きな要因になっていると思われます。これらについては、多くの関係者が疑問を投げかけてきたにもかかわらず、既存の組織や体制、やり方を見直すこともなく今日に至っているのが現状です。

このようなマイナス要因を取り除き、一過性ではない広がりのあるものにしていくには、中心市街地のランドデザインを描き、環境整備を進める中で、娯楽や学習、文化、歴史、芸術、音楽などに関連した取り組みを、様々な方々と連携して、地域性のある魅力的な事業として継続的に仕掛け、発信していくことが必要です。

そのためには、地域住民、民間が主体となって「自分たちがこのまちをつくっていく」という自負と責任を持ち、積極的にまちづくりに参画できる環境づくり、さらに主催者側も参加者側も得をするWin-Winの事業でなければこれまでと何ら変わりません。市民の声や力を中心にさまざまな仕掛けをコーディネート・マネジメントできる新しい運営組織を早急に立ち上げ、行政や商工会議所がバックアップする体制整備が求められます。

こうした運営組織が存在し、多くの人が「訪れて楽しい」「住んで楽しい」と実感できるようなまちづくりの取り組みが進むことで、快適で質の高い地域となり、地域全体の魅力が高まることによって、地域の資産価値の維持・向上という効果も生まれ、市民の所得向上や税収の増加が実現するという好循環が確立され、「稼ぐ力」のあるまちづくりとなると確信しています。これこそが、前橋が目指すべき新しいまちづくり「めぶく。～良いものが育つまち～」であり、この民間主体によるまちづくり運営組織の目的であります。

GREEN & RELAX

森の中のまちをつくる
～新しいまちづくりの提案～

発行者 前橋商工会議所(担当課: 政策推進課)
協力 direction: 飯塚 洋史(quod,LLC)
art direction: 村瀬 隆明(nanilani inc.)
design: 関根 亮(nanilani inc.)
住 所 前橋市日吉町1-8-1
T E L 027-234-5111
F A X 027-234-8031
U R L <http://www.maebashi-cci.or.jp/>
発行日 March 31st, 2019